

2017年(平成29年)8月3日<木曜日>

業界・行政ニユース

振興基金・建専連中部

15人が受講

建設労働者緊急
育成支援事業

建設業振興基金と建設産業専門団体中部地区連合会が主催する厚生労働省建設労働者緊急育成支援事業「建設業基礎・オペレーターコース講習会」がポリテクセンター名古屋



屋港などで行われている写真。12日間にわたって車両系建設機械運転、内装、とび、鉄筋、型枠などについて座学と技能実習を15人が受講している。「足場の組立等特別

教育」と「車両系建設機械運転技能」の2種類の修了資格を取得でき、7日には全ての講習を終了した者に修了証書が授与される。

今回の講習に参加している15人のうち5人は定時制や通信制の高校に通う学生。訓練期間は7月21日から8月7日までの全12日間で、建設概論や安全衛生、工事現場のマナー、5Sと報連相などの座学の他、塗装、重機、土木、内装、左官、鉄筋、型枠、とびの7工種の技能実習を行う。

15人の中で唯一の女性受講者は、「初めてのこ

とばかりで、どれも難しいと思った。車両運転訓練では初めて触る機械の点検箇所が多さにとまどってしまった」と、汗を拭いながら話してくれた。1日の型枠・鉄筋技能実習で講師に当たった愛知鉄筋業協同組合(名古屋市中区)の飯島勉理事長は、「技能労働者の不足が課題とされている中、この緊急支援事業の参加者の中から、1人も多くの若者がわれ

れの仲間として一緒に建設業で働いてくれることを期待している」と語った。

この講習は厚生労働省の「建設労働者緊急育成支援事業」で、基礎知識の概論、実地訓練終了後は、個人面談や就職相談を経て、就職先を紹介する。訓練実施場所はポリテクセンター名古屋港(名古屋港区)とキヤタピラー教習所(弥富市)。